

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。
Copyrighted materials of the authors.

研究会基本情報

2014年度第2回研究会（通算第2回目）

日時：2015年2月24日（火）9:30-17:30, 2015年2月25日（水）9:30-17:30

場所：AA研マルチメディアセミナー室(306)

2月24日

全員

ビジネスミーティング

全員

オープニング

Deisyi Batunan（マナド大学）

“Traditional ceremonies in Talaud”

Imelda（インドネシア科学研究所(LIPI)）

“Gamkonora Language project”

全員

ビジネスミーティング

2月25日

Katubi（AA研共同研究員, インドネシア科学研究所(LIPI)）

“The Ethnography and Documentation of Kui as Endangered Language in Alor Island, Indonesia.”

Fanny Henry Tondo（インドネシア科学研究所(LIPI)）

“Kao Minor Language in the Northern Coast of Halmahera, Eastern Indonesia”

Antonio Soares（ウダヤナ大学）

“The basic structure of Makasae language in Typological prescriptive.”

全員

ビジネスミーティング

研究会の概要

今回の研究会は Documentary Linguistics Workshop(2015.2.17-23)のコンサルタント・参加者として AA 研に招へいた4人のインドネシア人研究者と1人

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

の東ティモールの言語の話者&研究者が自身の調査・研究について報告した。上記ワークショップの講師 Sonja Riesberg 氏、Anthony Jukes 氏、および LIPI からのゲストである外国人研究員 Fadjar Thufail 氏も参加し、活発な議論が行われた。Deisyi 氏と Soares 氏はそれぞれ自身の話す少数言語のドキュメンテーションについて報告した。Deisyi 氏はいわゆる危機言語であるタラウド語の母語話者である。氏は現在でもタラウド語が観察される数少ない場面である葬礼などの儀礼の記録についての報告を行った。質疑応答では Deisyi 氏の試みを評価する声があがるとともに、得られた記録をより一般的な研究へと発展させる方向性についての議論も行われた。

Soares 氏は自身の母語である東ティモールのマカサエ語について報告を行った。Soares 氏は、東ティモールにおいて優勢な土着語の一つであり自身の母語であるマカサエ語を東ティモールの公用語の一つとして学校などで教授言語として用いるべきであるという主張を行ったが、この主張に対しては他の少数言語との共存の観点から疑問を呈する参加者もあった。

残り三名の発表者はいずれも LIPI から招へいされた言語学者で、2014 年まで行われていた少数言語・危機言語記録プロジェクトにおける各自の成果を報告した。発表後のビジネスミーティングでは、このプロジェクトの成果として収集された一次データを AA 研との共同作業により公開する方法について議論を行った。